

# 生涯学習 だより

第89号 <秋号>

2024年10月1日発行



生涯学習  
だよりの  
ホームページ

撮影場所：競馬場通り  
写真提供：「悠学の会」新谷一視

\* 第89号のテーマ \*

## 秋は気ままに 学びを楽しむ

P.1

「生涯学習サポーター」を活用しよう  
府中市文化生涯学習課

P.3

「学びを楽しむ・学びを支える」<19>  
ボランティアはボケ防止 荒木さん

P.2

今年もやります生涯学習フェスティバル  
「悠学短信」今年の秋は特別なの？

P.4

【ふちゅう東西南北】市境を越えて  
調布市の七福神を巡る

## 生涯学習サポーターを活用しよう

### 一生涯学習サポーターとは

市民の多様な学習機会の充実と、知識の活用を図るため、文化・芸術活動などの専門的知識・技術を持つ方に、「生涯学習サポーター」として登録していただき、市民の求めに応じて指導者として紹介するものです。

### 一生涯学習サポーターから学ぶには

生涯学習サポーターから学びたい方は、登録者一覧から講師を選んで、実施依頼書を市へ提出していただきます。市から講師に可否を確認した上で、依頼者の方へ連絡先をお伝えします。具体的な内容や条件について直接相談し、学習会などを実施していただけます。

### 一生涯学習サポーターになるには

講師として活動したい方は、生涯学習サポーター登録の届出書を、府中市文化生涯学習課へご提出ください。書類審査の結果、登録が決まると登録者一覧に指導内容等が掲載されます。一覧の冊子は市の施設で配布されるほか、市のホームページで閲覧できます。

### 一生涯学習サポーター制度を活用しよう

いま、文芸、音楽、舞踊、美術、工芸、語学、生活文化、自然など多彩なジャンルから、のべ48人の登録があります。あなたも府中市の生涯学習サポーター制度を活用して、自分の興味・関心に応じた「学び」を発見し、自分の特技を生かした「学び返し」の実践を試みませんか。

(府中市文化生涯学習課)

## 今年もやります フェスティバル



吉田尚記さん（写真左）  
田中雅美さん（写真右）

## 特別講座のご案内

13・14 両日開催（2階講堂・入場無料）

13日はニッポン放送アナウンサーの吉田尚記（ひさのり）さん、「肩書に縛られない！元コミュ障アナの働き方」14時～

14日にはシドニーオリンピック水泳 銅メダリストの田中雅美さん、「オリンピックで学んだ折れない心の作り方」10時～

その他イベントが盛り沢山！詳しくは2ページをご覧ください

## 表紙のつづやき

### 今年の秋は新しい視点で

昨年9月の健康診断の眼底検査で、白内障の「け」があると指摘された途端から、どうにも見え辛い感じが増してきて、新しい眼鏡を買いに行ったが、「まずは目を治してから来てください」と言われる始末。ぐずぐずしている間にずいぶん視力が落ちたようだ。

それで、ようやくこの8月末に手術を受けることになった。視力が改善した、正に新しい視点で、今年の秋の景色や読書の秋、さらには旬の食も大いに楽しみたいし、沢山の発見をしたいとしみじみ思う。

例年は、秋と言えば楽しい夏が終わって寒い冬に向かう少し寂しい感じのする季節なのだが、今年はどうな印象となるのだろうか。（竹村 稔）

今年もやいます  
フェスティバル

# 生涯学習フェスティバルは10月13日(日)・14日(月・祝)



- ★成果の発表★ 市民発表会（今年は31団体）、市民作品展
- ★学びの体験★ 市内で活動中のサークル・団体によるワークショップ
- ★特別講座★ 13日は吉田尚記さん、14日は田中雅美さん（本紙1面参照）
- ★スタッフおすすめ！★ パラリンピック種目ボッチャをテクノロジーの力でより気軽に楽しめる「CYBER BOCCIA」
- ☆その他、楽しいイベントも盛りだくさんです。

詳しくは⇒



悠学短信  
特別版

## 編集メンバーのつぶやき 「今年の秋は特別なの？」

日本には四季がなくなった、夏・冬の二季になったという人がいる。それでも秋の行事や風情を楽しむことはできる！そんな思いを書きました。

### 《今年の秋は》

今年の秋はどんな秋。多分去年と違うだろう、春が違っていったように。

春を跳び越し夏が来た。夏が居座り、そのために、秋はちょっぴり遠慮がち。

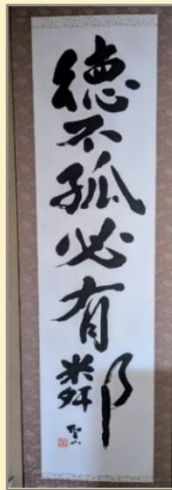
耳を澄まして目を凝らし、秋の気配を感じよう。新しい秋を楽しみに、期待を込めて待ちわびよう。

そんな気持ちでいる時に、8月8日、南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意の呼びかけ)が初めて流された。何もかもが変わっていく予兆なのだろうか。(中井博子)

### 《“芸術の秋”の楽しみ》

数十年も昔のこと、詩吟の指導者と知り合い、入門することになった。教材はほとんど漢詩。漢詩の読み書きは難解だが、理解できた時は大きな喜びであった。

わずか28文字(七言絶句)の中に自然の情景や万物の機微を巧みに織り込んで表現する世界は広大無辺。それを自分の表現にしたいとの思いが募り書道をも学ぶようになった。作者の思いを感じ自分の解釈で表現できたときの爽快感。静かな深夜に筆を握っていると、取り組みたい課題が次々と浮かんでくる。どちらも自己満足の世界ではあるが、高らかに名句を吟じ、書にすることは芸術の秋の密かな喜びである。(小林清次郎)



### 《秋といえば》

秋といえば思い浮かべるのは我が子の運動会！特に幼稚園での運動会は最後に年長組対抗の全員リレーがあった。足の速い子も遅い子も入り混じって一生懸命に走る。観客全員が応援の中、転んだり、コースを外れたり、バトンが渡せなかったりと悲喜交々。我が子でなくても応援する。その風景は本当に楽しい。勝っても負けても楽しい。無邪気な笑顔が一日中頭の中でかけっこしている。



運動会が終われば涼やかな風と共に紅葉の秋がやってくる。動と静の入り混じった秋が素敵だと思う。(辻 麻美)

### 《木の実拾いの楽しみ》

私の秋は待ちにまった木の実拾いです。木の実や枯れた花を拾い集めクリスマスリースにしたり(下の写真)お正月の松飾りを作ったりして楽しめます。

近いところではドイツウヒがたくさんある国分寺公園。武蔵野公園や野川公園はシダーローズやモミジバフウ。中でも一番好きなのは壺の形をしたベルガムナツ(ユウカリの実)です。この辺りにはなく葛西臨海公園や水元公園に行きます。木の実拾いをおかねてメタセコイアや银杏の黄葉も楽しめます。

日本でもこんな木の実が拾えるんだと感心するばかりです。(井口文江)



### 《コスパよりタイパ》

秋になれば、今まで以上に物事を深く考えるようになる。

最近“タイパ”を重視するご時世である。

自分の健康寿命を考えるとタイパが大事だと思う様になった。ふと“一粒で二度おいしい”のフレーズが浮かんだ。視点を変えたらより広く深く理解するし、見える景色も違う。——タイパ良し。経験も倍——。お得である。(山田詩子)

タイパ/タイムパフォーマンス: 費やした時間と得られた満足度の相対性を意味する言葉

### 《一枚の絵に想いを馳せて》

先日開かれたパリ五輪中継でオルセー美術館が映った。ここには私が好きなミレーの『落穂拾い』と『晩鐘』が展示されている。『落穂拾い』は、収穫後のこぼれ落ちた穂を、家族の食のために1本1本拾い集める尊い姿を描いたもの。

また、貧しい中にも一日の無事を神に感謝し祈る『晩鐘』。いずれも、真摯に生きる農民の日常が愛情のこもった眼差しで描かれている。子供の頃に見た時、深く心を打たれたことを覚えている。

フランス革命の後、フランス文化の流れも大きく変わった。それが、パリ五輪の開会式のパフォーマンスに活かされているのだろうと思う。五輪で高々と掲げられたトリコロール(三色旗)の表す“自由・平等・博愛”が末長く世界に広がるよう願うばかり。

初秋の涼やかな風を感じながら一枚の絵から想いを巡らせてみた。(柴田洋子)



## 「ボランティア活動はボケ防止の特効薬」

“学び返し”の日々を楽しむ 荒木順子さん（浅間町在住）

府中国際交流サロンで日本語を教え、多摩交流センターのTAMA市民塾ではスタッフとして講座の企画運営をし、趣味の陶芸では市内の施設や文化センターで作陶の指導をするなど忙しく飛び回っている荒木さん。その思いを聞いてみました。



— いろいろなボランティアに携わっておられますがそれぞれの活動を始めたきっかけは

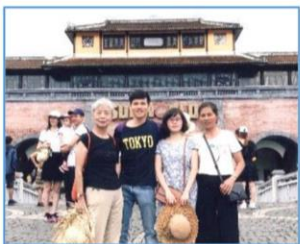
府中国際交流サロンで、府中市内に住む外国の方に日本語を教えることになったのは、私の尊敬する大先輩から、「あなたは海外へ良く行くのだからやりなさい」と言われたからです。その方の勧めならばと素直に従いましたが、私も海外で言葉が通じない不安を経験し、今ではこのボランティアをやって良かったと大変感謝しています。

TAMA市民塾は、退職して何かやらなくちゃと思っていた時に目にした市民塾の講座に、最初受講生として参加しました。その時、その講座の受講生の中で幹事(世話役)をすることになったのですが、受講の終了時、当時の塾長からスタッフになってくれないかと頼まれ、断り切れずに引き受けました。開催講座の選定や講師の方々への説明会の実施に加え、講座のカリキュラム作りや受講生募集など、講座開設の準備作業全般を担当しています。

陶芸は、生涯学習センターの陶芸教室を受講し、その後、市内の障がい者支援施設から陶芸を教えてくださいませんかとの依頼があつてボランティア仲間3人と行くことになりました。今も、紅葉丘文化センターでサークルメンバーと陶芸を楽しんでいます。

— ボランティア活動をしていてうれしいことは

国際交流サロンで日本語を教えた生徒さんが「日本の企業に就職できました！」と報告に来てくれたことがあります。また、以前に教えた人がちょっと困った時に頼って来てくれることもあります。ベトナム人の生徒さんなどは私にとっても懐いてくれて、私のことを「日本のお母さん」と言ってくれます。たまたま彼が一時帰国する時に誘われて、一緒にベトナムに行き本当のお母さんにご挨拶してきたこともあります。



ベトナムでの写真

沢山の生徒さんとの交流は、本当にうれしいことです。こんな草の根の交流が、それぞれの国の理解につながって、国同士も溶け合っていけばいいなと思っています。

また、障がい者支援施設でも陶芸作品を楽しみにしている人々が喜んでくれる時が、うれしいです。彼らの発想は実に自由で、お化けを作ったり欲しいとか、ピンク色のワニができたりします。

— ちょっと大変だなと感じられることは

日本語がわからない、話せないといってもそのレベルは多種多様です。例えば、日本に赴任したご主人と一緒に突然来日した奥様などは日本語が全く分らない、このような人に教えるのは本当に大変です。教師用のガイドでも、なるべく外国語を交えず日本語で教えるように言われていますので、マンガを描いたり、手振り身振りを駆使したりして教えます。それでも意思疎通は四苦八苦で、2時間の講習が終わればもうへトへト、すごく疲れます。

でも、私自身が30代に主人の仕事でブラジルのリオデジャネイロについていった時に、片言でも交流し助けてくれた人はすごくありがたかった。それを思い出して指導しています。生徒さんが、スムーズに日常生活ができるようになることを目標にしています。

TAMA市民塾の講座の企画運営は、やりがいはありますが、ちょっと大変ですね。

塾の講師は、一般の人なのです。自分の得意分野や趣味の世界でもなんでも、教えたい人はトライできる。それで講師を公募すると、毎回100人以上の応募があります。「学び返し」をしたい人は沢山おられます。その中から限られた講座数に合うよう、スタッフで選ぶのは簡単ではないです。また、講座開講までには沢山の作業をこなしていきますので、一年中作業が絶えません。でも、これが私の「学び返し」だと思って頑張っています。



↑ TAMA市民塾のロゴマーク

— 市民のみなさんに伝えたいことは

「ボランティア活動は、楽しくなければ、得ることがなければやる意味はない」と言われてボランティア活動を始めたのですが、今は、私が貰っているものはとても多いと思っています。例えば、国際交流サロンに紛争中の国から来ている生徒がいれば、それまで気にもしなかった世界情勢にも興味が湧き、視野が広がったような気がします。また、様々な活動を通して、多数の方々と交流することはとても刺激的です。それで、私にとって「ボランティアは正にボケ防止の薬」だと思っています。また、陶芸教室での作品作りでは指を使いますので、これもボケ防止には実に効果的です。

私の陶芸教室は、紅葉丘文化センターで月1回、月末の金曜日午前・午後に活動しており、参加メンバーは自由に好みの作品を作っています。興味のある方はぜひ体験しにいらしてください。（取材・文／竹村 稔）

## ふちゅう東西南北 隣接市の“学びのスポット”巡り ～調布市編～

市の境界線を越えて、隣接する市の学びに役立つ場所・スポットを巡る散策取材。今回は特別版として、お正月に調布市の「調布七福神」を訪ね歩いた時の様子をお届けします。



### 調布七福神を巡る

1月5日(金)、2024年の活動スタート。生涯学習だよりの取材で「調布七福神巡り」に出かけた。正に新春の好天に恵まれ、京王線仙川駅にメンバーが集合、10時に出発した。

まずは、駅に程近い「昌翁寺」へ。祭神は長い頭の寿老人、無病・長寿・子宝をさずけるといわれている神様だ。ここを皮切りに7つの寺を巡る。

駅の方に一旦戻って南に移動。実篤公園を横切って2番目のお寺、「明照院」に向かった。祭神は弁財天、七福神の紅一点。八臂(8本の腕)を持ち十五童子を従えた姿で、諸芸、智弁、福德を司る神様だ。

京王線つつじヶ丘駅に向かい、バスで七福神巡りの3番目「深大寺」へ。仏法の守護神・毘沙門天をお祭りしたお寺の境界は、正月の賑わいである。一行は“深大寺蕎麦”で昼食にすることに。蕎麦屋の順番待ちの間、公園のベンチにて持込み酒で年の恵みを祈念して乾杯した。



手打ち蕎麦を堪能し、気合を入れ直して4番目の「祇園寺」を目指す。祭神は福祿寿で、延寿、健康、商売繁盛を願う神様。5番目のお寺は京王線布田駅近くの「布田常性寺」、福の神・布袋尊が鎮座するお寺だ。着いた頃には足が重くなってきたが、頑張って次を目指す。あと残すは2つ。1時間余りの行程である。

6番目は布田天神社近くの「大正寺」。商売繁盛、福德円満の神様・恵比寿神はおなじみの釣り竿を持ち鯛を抱えた姿。参拝を済ませると、目指すは西調布にある「西光寺」。

西調布はさすがに遠いが、行程の最後のお寺になるので足取りは軽い。祭神の大黒天は、正月の7日間だけそのお姿を拝見できる。今回は貴重な機会だ。

長い道のりだったがなんとか15時35分に到着、これにて新年の「七福神巡り」は完遂。約18,000歩を歩き切った達成感が心地よい。

みなさんも、2025年の年明けには是非トライしてみてください。おすすめです。(渡邊繁雄)



### 自由の松

近頃は秋が短いせいか、10月の声を聞くと早くも正月の七福神巡りに思いをはせることがある。気軽に行ける調布七福神のうち、ご利益が長寿、金運、幸福の福祿寿がいらっしゃる祇園寺の境内には2本の赤松がそびえている。「自由は死せず」の板垣退助の手植えとされ、自由の松と称される。

福祿寿のご利益「幸」は、願う人のおかれる状況により様々であろう。地球上には(少なくとも戦乱、言論統制などの無い)自由という幸を切望する多くの人々がいる。彼らに幸あれかし。(中濱敬文)

七福神のように、各地には伝統的な行事が受け継がれています。編集メンバーにたずねてみました。

### 必見！京都の「時代祭り」

私は中学、高校を歴史の詰まった京都で過ごした。行事で忘れられないのが10月22日の「時代祭り」だ。

この祭りは明治になってから始まった行事で、千有余年にわたっての歴史風俗絵巻として披露されている。各時代の行列の衣裳や祭具は、厳密な時代考証をもとに作製されたものだそう。約2,000名の行列は、明治の維新勤王隊を先頭に明治維新から平安京が造営された延暦時代へとさかのぼっていく。

日本人にとって必見の行事だ。(鈴木禎治)



### くり祭り／府中の秋の味覚 - 栗

お手伝いしている農園には、約100本の栗林がある。毎年9月の声を聞くと、嵐がやってきてつややかな茶色の実を落とす。早朝からの栗拾いが日課、落ちたのを放置するとすぐ虫のご馳走となる。

武蔵野台地は古来栗が良く育ち、府中ゆかりの川崎平右衛門さんが小金井の新田で栗栽培を奨励し、将軍に献上したと伝わる。今は、都市化の波に飲み込まれ、栗林はあまり残っていないが、大國魂神社の秋季祭り・くり祭り(9月27・28日)は江戸の賑わいを今に伝える。秋は大地の豊穡に感謝する季節だと思ふ。(奥野英城)

